

『稲作』学習の一環として

石和東小学校の5年生は、総合的な学習の時間『お米博士になろう』の一環として博物館を訪れ、米作りについて調べ学習をした。

社会科の『農業のさかんな地域をたずねて(1)稲作にはげむ人々』単元と関連
国語のごみ問題・リサイクルを扱った単元(光村『人と「もの」とのつき合い方』)とも関連

当日までの流れ



たねもみの選別

苗づくり

しろかき(トンボを流用)

田植え



いねかり

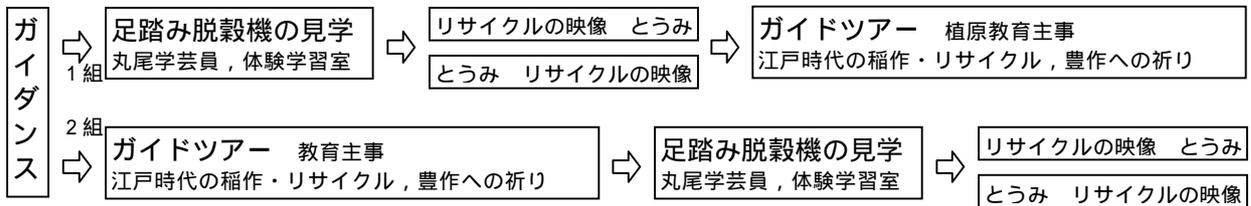


借りてきた千歯こきによる脱穀。



脱穀後、うちわであおって、風でもみ殻を吹き飛ばした。

当日の流れ



稲作・リサイクルの展示資料

ノラのコーナーは、稲作の1年間を展示している。これは田のまわりをぐるっとまわしてから水を入れている水ぬくめ。



わらは稲作の過程で出てくるゴミだが、それを上手にリサイクルしてきた。この写真にはわらをリサイクルしたものがたくさん写っている。



これもわらをリサイクルして作られているむしろ。ムラの農家の前に並べて乾かされている。



糞尿のリサイクル。畠のわきに作られた野壺にいったん入れて十分発酵させてから、畠にまかれた。



リサイクルの現場ではリサイクルに関する3本のビデオ映像が楽しめるので、少人数で鑑賞した。



実際にとうみのハンドルを回して、風が起ることを確かめている。「これならうちわよりずっと楽だ」という感想を漏らす子がいた。



見学後に収穫祭を計画していて、子どもたちは「どんな収穫祭にしようか」という課題も持った見学だった。田んぼに感謝する方法については、田んぼに酒を捧げ、お祈りをしているジオラマが参考になり、後日、収穫祭をどうするかの話し合いの中で、子どもたちからジオラマについての意見が出された。

当日後の流れ



収穫したお米でおにぎりを作ってパーティーを。



学習発表会。左は劇、右はクイズによる発表。



最後に収穫に感謝。

一言

子どもたちは総合的な学習の時間で今まで経験したことと博物館の展示が重なる部分があり、植原教育主事のガイドツアー『江戸時代の稲作』に興味を示していた。また、収穫祭に向けての課題を持って行ったので、豊作の祈りも参考になった。博物館は2度目の見学だが、目的を持っての見学は、子どもたちにも見えてくるものが違って来るようだ(子どもから「前は気がつかなかったことが、今回、説明を聞いてよくわかった」「おもしろかった」という声があがった)。自分たちの手で体験したことがもとになり、展示物がより理解できたからだ。

3学期はワラを使ったリサイクルに取り組む予定だが、ワラのリサイクルに関する展示も参考になり、子どもの活動の意欲付けになった。総合的な学習の時間の中期に博物館の見学を取り入れたことで、学習のまとめとともに、次の課題づくりにも役立った。
(石和東小学校 小保 恵)